

# キャリア教育ガイドブック 「ぐんまのキャリア教育」



平成29年7月  
群馬県教育委員会

# はじめに

現代の子供たちは、学校教育における学びが自分の将来と結び付かないために、学習することの意義を見いだせず、学習意欲の低下を招いているとの指摘が各方面からなされています。また、少子化や地域社会の変化による人間関係の希薄さや親の過干渉等が原因で、コミュニケーション能力が低下したり、自分で意思決定できなかったりすることも課題とされています。社会的に見ると、不安定な雇用形態が増大し、職業に就いても継続的に目標を持ち続けて働くことが難しい状況にあるといえます。

こういった現代の課題を受け、群馬県では平成26年3月に策定した「第2期教育振興基本計画」において、基本施策の最初に「社会的・職業的自立に必要な能力を育成する」ための取組として、「時代に応じたキャリア教育の充実」を掲げ、キャリア教育を群馬県全体で取り組むべき重要な教育課題と捉えているところです。

県教育委員会では、平成26年度より学校教育の指針の「学校経営の重点」の中で「キャリア教育の充実」を掲げるとともに、県内の4中学校区を「キャリア教育推進地域」として3年間指定させていただきました。各指定地域では、それぞれの地域の特色を生かしながら、義務教育9年間を通して児童生徒の社会的・職業的自立に必要な能力をどう育成していくかについて研究を進めていただき、継続的な授業提案等を通して、多くの取組を県内に発信していただきました。

本ガイドブックは、これらの研究の中から具体的な実践例を示したり、研究を通して生まれた成果や疑問をまとめたりして、県内のすべての学校において、キャリア教育の推進と充実が一層図れることを願って作成したものです。キャリア教育の捉え方や組織の作り方をはじめ、指導計画の作成や評価の方法について理解を深めたり、地域の特色を生かした授業づくりをしたりする際に広く活用され、群馬の子供たちが社会的・職業的に自立した一人の人間として前向きに力強く生きていくことにつながる教育が展開されることを期待しております。

最後に、本ガイドブックを作成するにあたり、推進地域4中学校区の皆様をはじめ、関係機関の皆様に心より感謝を申し上げます。

平成29年7月

群馬県教育委員会

義務教育課長 鈴木 佳子



# 〈目次〉

はじめに

## I 理論編

1	自校のキャリア教育の取組状況チェック	1
2	キャリア教育で育成したい能力や態度	2
3	キャリア教育を推進するための体制	2
4	社会的・職業的自立に向け、目の前の子供たちにとって 必要な基盤となる能力・態度の設定	3
	(1) 基礎的・汎用的能力を基にした必要な基盤となる能力・態度の明確化	
	(2) 育成したい能力・態度を焦点化・重点化	
	(3) 全体計画の見直し	
	(4) 年間指導計画の作成	
5	キャリア教育における評価	4
6	地域と連携したキャリア教育	5
7	高校におけるキャリア教育	5
8	企業が求める力	6

## II 実践編

1	特色あるキャリア教育の取組	7
	(1) 小中学校の連携を深める取組	
	(2) 学びのつながりを深める取組	
	(3) 地域の力を学びに生かした取組	
	(4) 重点化により能力・態度の着実な育成を図った取組	
2	各教科等における授業実践例	15
	(1) 人間関係形成・社会形成能力	
	授業実践1 小学校6年「学級活動」	
	授業実践2 中学校1年「国語」	
	授業実践3 中学校1年「英語」	
	(2) 自己理解・自己管理能力	
	授業実践4 小学校4年「国語」	
	授業実践5 小学校6年「総合的な学習の時間」	
	(3) 課題対応能力	
	授業実践6 小学校4年「国語」	
	授業実践7 小学校4年「社会」	
	授業実践8 中学校1年「美術」	
	(4) キャリアプランニング能力	
	授業実践9 小学校3年「社会」	
	授業実践10 中学校2年「総合的な学習の時間」	

III	キャリア教育Q&A	25
-----	-----------	----

# I 理論編

## 1 自校のキャリア教育の取組状況チェック

各学校で実践されているキャリア教育をより効果的な活動としていくためには、まずは自校の取組状況を客観的に捉え、課題や改善点を明確にする必要があります。

次のチェック表を基に自校の現状を確認の上、本ガイドブックのページを参照し、キャリア教育を充実させていきましょう。

チェック内容	※あなたの学校の現状に近いのはどちらですか？		※共通理解や見直しに必要な情報等が掲載されているページを示しています。
	そのまま進めましょう	共通理解や見直しが必要	
キャリア教育についての共通理解については…	文科省の手引きや国立教育政策研究所の冊子等を活用したり、講師を招聘したりして研修を行っている。	キャリア教育担当者以外は、資料を配付し、各自で理解するようにしている。	P2 参照
キャリア教育で育成したい能力・態度の設定については…	基礎的・汎用的能力を参考に、教職員間の話し合い、地域の方の考え、各種資料等を基に検討している。	学校内の運営委員会や生徒指導部会で検討して決めている。	P3 参照
キャリア教育の指導計画(全体計画・年間指導計画)の作成については…	キャリアの視点で洗い出し、意図的に関連付けた計画を作成し、全教職員が計画を意識して指導している。	進路指導の計画を基にキャリア教育に当たる内容を全て抜き出して作成した。	P3～4 参照
キャリア教育の評価の仕方については…	学期末や年度末に意識調査やポートフォリオ等を活用した評価をしている。	評価については、ほとんど行っていない。又は教科等の授業で毎回評価している。	P4 参照
義務教育終了後のキャリア教育については…	地域や社会・企業が求めている基礎的・汎用的能力について、教員間で共通理解している。	義務教育終了後のキャリア教育に対する理解はあまり図られていない。	P5～6 参照
他校種(小・中学校)の連携については…	他校種と連携して義務教育9年間で育成したい能力・態度を共有している。	大きな学校行事(体育祭等)のみ小・中合同で実施している。	P7～8 参照
年間指導計画の充実・活用については…	教員が年間指導計画を意識して指導を行い、改善点等の気づきを朱書きしている。	年間指導計画を作成したが、指導には生かされていない。	P9～10 参照
地域と連携したキャリア教育については…	キャリア教育地域連携協議会等を組織し、様々な教育活動で計画的に連携を実施している。	学校支援センターを活用し、授業を支援してもらっている。	P11～12 参照
学校における育成したい能力・態度の焦点化・重点化については…	中学校区の課題を基に各小・中学校で育成したい能力・態度を焦点化・重点化して指導している。	育成したい能力・態度は示されているが、焦点化・重点化はできていない。	P13～14 参照
各教科等におけるキャリア教育については…	キャリア教育の指導計画を踏まえた上で、教科等で社会や生活とのつながりを意識した指導をしている。	教科等の授業において、どのようにキャリア教育に取り組むかが明確でない。	P15～24 参照

## 2 キャリア教育で育成したい能力や態度

キャリア教育とは、子供たち一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力・態度を育てる教育です。学校教育においては、子供たちが将来自立して、社会の中で自分の役割を果たしながら力強く生きていくことにつながるような活動を見だし、教師が意図的・計画的にキャリア教育の視点をもって働きかけていくことが求められます。

子供たちが社会的・職業的に自立するために、必要な基盤となる能力・態度については様々考えられますが、文部科学省では例として右図のような「基礎的・汎用的能力」を示しています。

そこで、この4つの能力に照らし合わせながら各学校区や各学校で子供たちの現状を把握し、課題を明確にしていくと、キャリア教育を通して育てたい具体的な能力・態度が考えやすくなります。なお、ここで示された4つの能力については、それぞれ独立して考えるものではなく、相互に関連させながら複合的に捉え、育成したい能力・態度を考えていくことが大切です。

### 基礎的・汎用的能力

#### ◇人間関係形成・社会形成能力

(例)・他者の個性を理解する力 ・コミュニケーション・スキル  
・他者に働きかける力 ・チームワーク ・リーダーシップ 等

#### ◇自己理解・自己管理能力

(例)・自己の役割の理解 ・前向きに考える力 ・自己の動機付け  
・忍耐力 ・ストレスマネジメント ・主体的行動 等

#### ◇課題対応能力

(例)・情報の理解・選択・処理等 ・本質の理解 ・原因の追究  
・課題発見 ・計画立案 ・実行力 ・評価・改善 等

#### ◇キャリアプランニング能力

(例)・学ぶこと、働くことの意義や役割の理解  
・多様性の理解 ・将来設計、選択 ・行動と改善 等

## 3 キャリア教育を推進するための体制

義務教育段階では、各中学校区の地域特性や保護者の願いなどを踏まえた上で、子供たちの社会的・職業的自立を目指していくことが求められます。よって、学校・家庭・地域が育成したい能力・態度を共有した上で義務教育9年間を見通した計画を立て、同じ中学校区にある各学校と地域が一体となってキャリア教育を推進していくことが重要です。そのためには、子供たちの現状や活動の方向性・可能性について、下図に示したような組織による会議等を定期的に設けて話し合うことが有効です。このことで、互いの役割分担が明確になり、協力体制が強化されることにつながります。

#### 《例》学校間連絡会議

##### 【構成員】

- ・管理職 ・教務主任
- ・生徒指導主事
- ・キャリア教育担当
- ・市町村教育委員会 等

- 中学校区における児童生徒の実態について情報交換する。
- 学校間の活動を互いに知り、つながりを探る。
- 発達の段階に応じた系統性のある指導を検討する。

#### 《例》地域連携協議会

##### 【構成員】

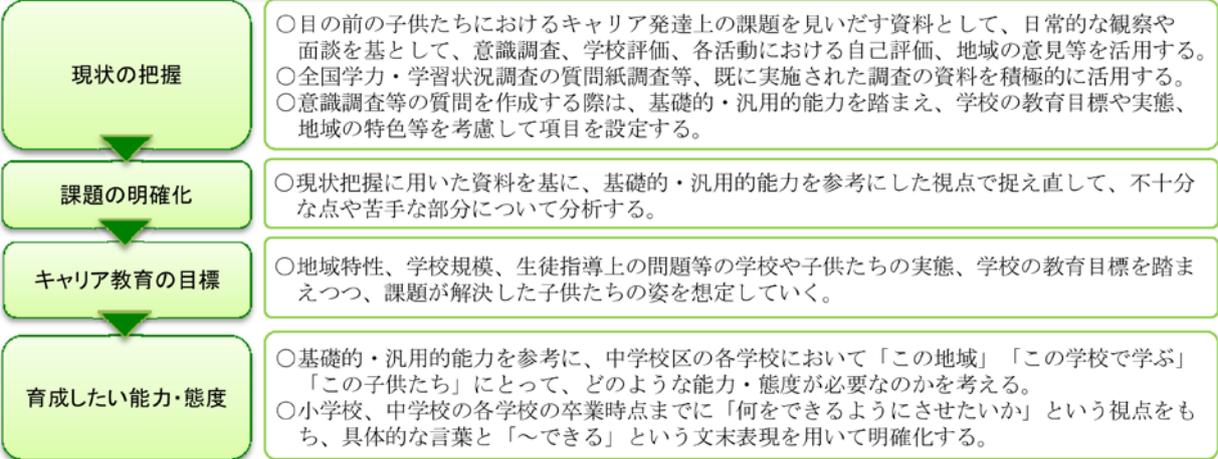
- ・PTA代表
- ・自治会長 ・商工会代表
- ・地域の事業者
- ・管理職 ・教務主任
- ・キャリア教育担当
- ・市町村教育委員会 等

- 地域社会、産業界等の様々な立場から、地域の子供の課題や育てたい能力・態度についての意見を言ってもらおう。
- 社会との接続を意識させたい活動等での協力を依頼する。

新たな組織や会議を設定するのではなく、既存の組織や会議を用いてキャリア教育について議論する場を設けるなどの工夫により、大きな負担感を生み出すことなく取り組めるようにしましょう。

## 4 社会的・職業的自立に向け、目の前の子供たちにとって必要な基盤となる能力・態度の設定

### (1) 基礎的・汎用的能力を基にした必要な基盤となる能力・態度の明確化

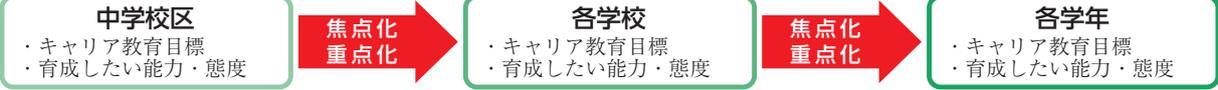


#### 〔例〕 将来の社会的・職業的自立に向けた必要な能力・態度の明確化の流れ



### (2) 育成したい能力・態度を焦点化・重点化

基礎的・汎用的能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、地域や学校の特性によって異なります。中学校区の設定した目標、育成したい能力・態度を踏まえ、学校、学年で育成したい能力・態度を焦点化・重点化していくことが大切です。各学校における焦点化・重点化に当たっては、全教職員が協働で検討していきましょう。



### (3) 全体計画の見直し



キャリア教育を体系的に推進していくためには、学校の特色や教育目標に基づいて、教育課程に明確に位置付けた計画を作成していくことが大切です。自校の全体計画について、以下の観点に基づき再確認し、全教職員の共通理解を深めていきましょう。

- 昨年の計画や進路指導の計画をそのまま使っていませんか？**  
→学校の教育目標や子供の変容を踏まえて、学校や学年の重点目標を絶えず見直して計画に反映させましょう。
- 必要な項目について盛り込まれていますか？**  
→左図の①～⑧を中心に各校に必要な内容を加え、相互の関係性が容易に把握できるように1枚の用紙にまとめましょう。
- 育成したい能力・態度が具体的に設定されていますか？**  
→上記の(1),(2)の手順を踏まえて、評価の際に常に立ち返ることができるように具体的に示しましょう。

(4) 年間指導計画の作成

**員で、各教科・領域等における既存の活動を、  
キャリアの視点で洗い出す**

基礎的・汎用的能力等を基に、学年としてキャリア教育で育成したい能力・態度が具体的に決まったら、それらの力を育成するために効果的な活動がどのようなものかを全教職員で検討し、整理していきます。その際、学校教育における既存の活動には、すでにキャリア教育と関連するものが多数ありますので、それらをキャリア教育の視点で洗い出し、意図的に関連付けた計画とすることが大切です。このことで、今まで意識されてこなかった各教科等におけるキャリア教育としての学びのつながりが明確になり、全教職員が教科・領域間や学年間等の関連を意識して、横断的で系統的な指導を行うことが可能となります。

◎洗い出した学習内容や活動を関連付ける  
(必要に応じて新たな活動を検討する)

キャリア教育年間指導計画の例					
当該学年の目標 自分の役割を知り、将来に向けて夢や希望を広げることができる。					
当該学年で育成すべき能力・態度					
人 人間関係形成・社会形成能力	自 自己理解・自己管理能力	課 課題解決能力	キ キャリアプランニング能力		
・自分のよさや友達とのよさを認め合い、励まし合うことができる。	・長所を伸ばし、短所を改善しようとしながら目標に向けて努力できる。	・生活や学習上の課題を見付け、自分の力で改善できる。	・希望する職業や目標をもち、実現に向けてやるべきことを考えられる。		
月	各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動 学級活動 その他	
4月	国語 人 「プラス思考」アパライズ 相手の状況をおもん ながら、自分の考えを 話すことができる。	目標をもって 自 「より高い目標に向かっ て取り組むやり方」を 試す。	未来に 自 自 自 向かって 「自分で調べたり友達 の意見を参考にしながら、 未来の自分を思い 描き、未来に向かっ ていく目標や希望を 持つことができる。	最上級生の 自 自覚をもつ 「6年生としての役割と 望ましい在り方を考え、 実践し、達成感をもてる。	始業式 自 入学式 自 離任式 人 対面式 人
	家庭 自 自 工夫しようの生活 「自分や家族の生活 時間を守り、楽しみ たりすることができる。	役割の自覚・ 自 責任 「身近な集団に属して 参加し、自分の役割を 果たそうとする。		学級の係を 自 決めよう 「学級の仕事を分担し、 集団の一員としての自 覚と責任を高められる。	
5月	体育 自 人 「リレー」を定めて競争 したりチームの記録や 目標の達成を目指す ことができる。	自分の責任 自 「自分や周囲の安全を 守る」と同時に、規律を 守る。		自己紹介 自 人 ゲームをしよう 「友達一人一人を覚 え、友人関係を築き 広げる。	修学旅行 人 自

5 キャリア教育における評価

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じて行う教育です。よって、一単位時間の中で、育成したい能力・態度がどれだけ身に付いたのか、児童生徒の大きな変容を見取することは困難です。そのため、毎時間授業の中で評価していくことには無理があります。

キャリア教育における評価については、設定した育成したい能力・態度を基に右表の例を参考に様々な方法を取り入れながら、学期や年度などの長い期間をかけて評価を行いましょ。そして、それらの評価を全教職員で共有しながら、教育活動全体の更なる改善・充実を図りましょ。

一時間の授業の中で教科等の評価と混同させたり、教科等の評価とキャリア教育の評価とをそれぞれ行うなどと考えたりすることのないよう留意ましょ。

◇評価の時期と評価方法の例

評価の時期	評価の方法
・ 特定の取組の前後	・ アンケート調査
・ 学年・学期初め	・ 学校評価
・ 学期末・学年末	・ 自己評価
・ 活動の中間段階	・ 相互評価
等	・ ポートフォリオ
	・ 児童生徒との 面談・面接
	・ 日常的な観察
	等



**普通科**

各教科・科目の特性を生かし、「グループによる話し合い活動」や「ディベート」等を取り入れた授業を行っています。総合的な学習の時間や特別活動との関連を図りながら、授業でも生徒の社会的・職業的自立を意識し、可能性を引き出します。



**専門学科**

地域の産業界や研究機関等と連携して、農業・工業・商業・福祉の各分野において、特色を生かしたキャリア教育に取り組んでいます。

生徒は、「課題研究」や「長期インターンシップ」等を通して、専門分野における知識・技術を習得するとともに、将来進む可能性がある職業に関連する活動を試行的に体験します。



**総合学科**

普通科と専門学科の教科・科目が幅広く開設され、自分の進路についての考えを深めながら、適性、興味・関心等に応じて科目を選択することができます。特に、自己の進路への自覚を深めさせるための科目として、「産業社会と人間」が設けられています。

高校段階は、進路設計の立案と社会的移行の準備期間です。進路の現実吟味と試行的参加が大切だと考え、①教科・科目を通したキャリア教育、②総合的な学習の時間における探究的学習によるキャリア教育、③ホームルームや学校行事等特別活動を通したキャリア教育、④家庭・地域社会・企業等との連携によるキャリア教育等、各高校が様々な角度からキャリア教育に力を注いでいます。

特に④ではインターンシップや社会人講師による講話、大学教授等による出前授業、ボランティア活動、体験活動等、各学校が実情に合った取組を行っています。

**8 企業が求める力**

企業では、多様な変化に対応できるように、右図のような力が求められています。

これらの力は、キャリア教育で育成したい力とほぼ一致しています。企業で求める力を踏まえながら、児童生徒や学校の実態に応じて、キャリア教育に取り組むことが大切です。

また、いつの時代でも、企業が求める能力には、大きな変化はありません。

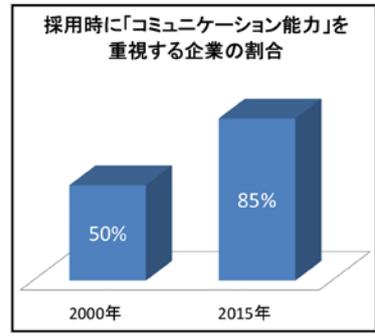
ただし、採用時に「コミュニケーション能力」を重視する企業は増えています。それは、多様な変化のある社会で、様々な相手（企業・顧客）と接したり、様々な情報を活用しながら組織内外で協力して臨機応変に対応したりする機会が増えているからです。

様々な情報機器の普及により、直接話す機会が減ってきていますが、意見を交流し合う場面を設定するなど、たくさんの人と関わる機会を意図的に設定しましょう。

**企業が求める上位5項目！！**

1位	コミュニケーション能力
2位	主体性
3位	チャレンジ精神
4位	協調性
5位	誠実性

※日本経済団体連合会調査より



## Ⅱ 実践編

### 1 特色あるキャリア教育の取組

#### (1) 小中学校の連携を深める取組

##### 【実践の概要：渋川市立渋川中学校区（豊秋小、渋川南小、渋川中）】

主体的に学び夢に向かって努力する児童生徒を育成するため、学校、家庭、地域が一体となった、義務教育9年間を見通したキャリア教育を計画・実践した。本中学校区3校の全教職員が所属するキャリア教育推進部会（小中連携部会、授業研究部会、体験活動部会）を位置付け、9年間を見通した指導の充実を図るとともに、行事等を通じた学校間のつながり、児童生徒のつながりを生かした教育活動を実践した。

##### 【目指す児童生徒】

- 将来の夢や希望を思い描いたり語ったりする。
- 自信をもって行動する。
- 自分の考えを、自らの言葉で表現する。

##### 【地域の願い】

- 自分に適した職業選択をして、社会の一員として貢献できる人になってほしい。
- 自分を律して行動に責任をもち、思いやりをもって他者と協調できる人になってほしい。
- 他者とコミュニケーションができる人になってほしい。

##### 【変容】 子供が変わる！

- 小学校・中学校における勤労観・職業観に関わる学習内容を系統的に整理し、9年間のつながりを意識した指導を行うことで、児童生徒の進路や将来設計への関心が高まる。
- 小学校・中学校の行事交流を通して、小学生は自分になりたい中学生の姿を思い描き、今すべきことを考えるようになる。中学生は、小学生に目標とされることで、自己有用感や自信をもてるようになる。また、相手に分かりやすく伝える方法を考えるようになる。

#### 実践するときのPOINT

- 全職員が児童生徒の実態と目指す児童生徒像を共通理解するための組織をつくる。
- 小学生には中学生に対するあこがれをもたせ、中学生には目標とされることで自己有用感や自信をもたせることを意識した言葉かけや支援を行う。



〈具体的な取組〉

○3校で共通の研究部会を設置

中学校区で共通の視点からキャリア教育に取り組むために、キャリア教育推進部会（小中連携部会、授業研究部会、体験活動部会）を設置。全教職員がいずれかの部会に所属しキャリア教育に取り組みました。

全教職員が集まった研修会や公開授業を開催した。  
共通の部会を設置することで、職員のつながりも深まる。

キャリア教育推進部会		
<b>小中連携部会</b> 生徒指導面での連携行事での交流活動 統一テーマでの学校保健委員会開催 特別支援学級の交流	<b>授業研究部会</b> 授業研究部のテーマに沿った授業実践 勤労観・職業観を育む授業実践 キャリア教育年間指導計画の作成・改善 合同授業公開・研究会	<b>体験活動部会</b> アンケートの作成・調査・活用 9年間を見通した「体験活動プログラム」「まなびのつながり」を作成 地域連携の推進

○9年間の学習や体験活動を系統的に整理

小中学校の教科・領域の単元や題材を、「自分の役割」「職業」「将来」の3つの視点で系統化した指導計画「まなびのつながり」と、職業観・勤労観を育むための体験活動を、基礎的・汎用的能力の視点で系統化した「体験活動プログラム」を作成しました。

9年間の学習のつながりを意識した指導の充実を図りました。

キャリア教育に関わるもの全てを取り出すのではなく、意図的に関連付けた計画とすることが大切。

【「まなびのつながり」抜粋】

自分の役割	職業	将来
1・2年 いえのしごと(生活) 学級の係(学活)	1・2年 がっこうたんけん(生活) 町たんけん(学活)	1・2年 もうすぐ2年生(生活) もうすぐ3年生(生活)
3・4年 仲良しだから(道徳) 知って友だち(総合)	3・4年 人々の仕事とわたしたちの暮らし(社会)	3・4年 10年後のわたしへ(国語) 1/2成人式(社会)
5・6年 明日を作る私たち(国語) 野山を訪ねる会(行事)	5・6年 生命第一米作り(総合) 修学旅行(行事)	5・6年 12年後の私(図工) 未来に生きる私(総合)
中学 自分を紹介(1年英語) 自分を知らう(3年総合)	中学 職業調べ(1年総合) 職場体験(2年総合)	中学 30歳の私(1年総合) 適切な進路選択(3年総合)

○行事等での交流活動

小学生は、中学生の姿にあこがれをもつと同時に数年後の自分の姿を考える機会となります。また、中学生にとっては、分かりやすく伝えようとする動機付けになるとともに、目標とされることで自己有用感を高めることにつながりました。



【小学生が中学校の行事を見学している様子】



既存の行事をキャリアの視点で見直すことが、無理のない実践につながる。

【中学生が小学生に自作の紙芝居「中学校生活について」を読んでいる様子（職場体験）】

## (2) 学びのつながりを深める取組

### 【実践の概要：富岡市立北中学校区（小野小、北中）】

義務教育9年間を見通し、中学校区・家庭・地域との連携を強化しながら、児童生徒の発達段階や家庭・地域の実態に応じたキャリア教育の推進を、以下のように図った。

- ① 4つの「基礎的・汎用的能力」を、本中学校区における児童生徒の実態と照らし合わせて、より具体的で明確な「力」「心」「姿」として設定し、全体計画に位置付けた。
- ② キャリア教育を重点的に行う単元を各教師がそれぞれ位置付ける「教師用キャリアシート」を作成・活用し、各教科等とキャリア教育との関連性を意識して指導できる、より実効性の高い年間指導計画とした。
- ③ 「児童生徒用キャリアシート」や「学びつなぎシート」を作成・活用し、児童生徒自身が学習を振り返り、「身に付けたい力」や「自己の成長や変容」に目を向け、学びと学びのつながりや、自分の未来と今の学びのつながりを実感できるようにした。

#### 【目指す児童生徒】

- 他者との交流を通して、人間関係を広げる。
- 仲間の特徴を多面的に見る。
- 自らの判断で行動できる。
- より高い目標をもてる。
- 経過や過程を重視する。

#### 【地域の願い】

- 自分の考えを表現するとともに、他者の考えを取り入れながら、自己を高めてほしい。
- 新しい環境に直面しても、自分の考えをしっかりとって生きてほしい。

#### 【変容】 子供が変わる！

- 目指すゴールの姿を具体的にイメージできることで、目標に向かって主体的・意欲的に行動することが増えるとともに、工夫して物事を進められるようになる。
- 「児童生徒用キャリアシート」や「学びつなぎシート」の活用により、自己の成長や変容を自ら振り返って実感しやすくなり、自己肯定感や自己有用感が生まれる。
- 教師が「児童生徒用キャリアシート」に、その児童生徒が気付いていない視点のコメントを書くことで、自分の新たな成長に気付きやすくなる。

### 実践するときのPOINT

- 「学び」の歩みやつながりを、児童生徒自身の振り返りと併せて、教師のアドバイスも積み重ねていく。
- 設定した能力・態度を学校間で関連させ、その育成に有効な活動をシートに整理して、指導につなげる。



〈具体的な取組〉

○設定した能力・態度を関連付け、その育成に有効な単元や活動を洗い出す

キャリア教育で育成したい能力・態度について、小学校では「力」や「心」で捉えて設定し、中学校では「姿」で捉えて設定しました。

これらを全体計画等の中で共通の色分けをして示すことにより、それぞれのつながりをイメージしやすくしたり、中学校区的全職員が9年間のスパンの中で系統的・横断的に指導を行ったりする上で効果的でした。

また、設定した能力・態度を育成するために有効と思われる単元や活動を洗い出し、教師用キャリアシートに整理しました。このことで、洗い出した各活動のつながりが能力・態度ごとに可視化され、学校の教育活動全体を通した実践へとつなげることができました。

【全体計画の例】

【小学校教師用キャリアシートの例】

【中学校教師用キャリアシートの例】

【児童生徒用キャリアシートの例】

計画やシートに示す際は、関連する能力・態度の色を統一して明確にする

実態や重点目標も色分けし、身に付けさせたい能力・態度との関連を明確化する

能力・態度を育成するために有効な単元や活動を洗い出し、キャリアシートに整理する

○児童生徒の学びと、身に付けた能力や態度との関連を図る

「児童生徒用キャリアシート」を活用して、児童生徒の意識がどこに向いているか、自身の成長や変容をどう感じているかを適宜見取りながら評価に役立てました。また、「学びつなぎシート」を活用して、児童生徒自身が積み重ねてきた学びを、身に付けた能力・態度と関連付けて意識できるようにしました。

教師のアドバイスも入れながら、学びと能力・態度を児童生徒自身がつなげていく

【児童生徒用キャリアシートの例】

【学びつなぎシートの例】

### (3) 地域の力を学びに生かした取組

#### 【実践の概要：みなかみ町立新治中学校区（新治小、新治中）】

一人一人が夢や希望をもち、それに向かって主体的に学習に取り組める児童生徒の育成を目指すため、各教科等においてキャリア教育の視点からの授業改善に取り組むとともに、小・中の発達段階に応じ、地域の特色を生かした系統的な体験学習の構築をめざし教育活動の見直しと実践を行った。

授業改善や教育活動の充実に向け、小中学校の校種間で連携を図りながらキャリア教育の全体計画・年間計画の充実を図るとともに、さらにキャリア教育地域推進協議会にて、地域で学ぶ子供たちについて話し合うなど定期的に情報交換を行った。

#### 【目指す児童生徒】

- 筋道立てて分かりやすく説明する。
- 主体的に学習に取り組む。
- 不得意なことや苦手なことに進んで取り組む。
- 学ぶこと・働くことの意義や役割を理解し、将来設計を立て、努力する。

#### 【地域の願い】

- 地域や自然を大切にし、郷土を愛する児童生徒を育てたい。
- 楽しく生き生きと学校生活を送ってほしい。
- 自分の考えを進んで伝えてほしい。

#### 【変容】 子供が変わる！

- 地域連携による学習を通して、地域を愛し、大切に思う心情が育つ。
- コミュニケーション活動を効果的に取り入れたことで、積極的かつ適切に自分の思いや考えを伝え合う力が身に付く。
- 地域における体験活動を通して、目的をもって学習に取り組む意識が高まる。
- チャレンジウィーク発表会への保護者参加などを通して、親子で将来のことについて話す機会が増える。
- 授業改善や教育活動の充実を図ることで、児童生徒の学びに対する姿勢が主体的になる。

#### 実践するときのPOINT

- 学校評議員会などの地域の方々を行っている既存の会議を活用する。
- 学校と地域の方が授業のねらいや児童生徒の目指す姿などを共有し、キャリア教育の視点を取り入れた体験活動の充実を図る。
- 授業での学びが、自らの将来とつながっていることを実感させられるよう、積極的に地域の物的・人的資源を活用した学習を取り入れる。



〈具体的な取組〉

○キャリア教育地域推進協議会

地域の子供たちについて推進委員の方と話し合うことは、その後の授業改善や教育活動の充実に向けて大きな推進の力となりました。

地域推進協議会構成員	主な活動内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校評議員代表者1名</li> <li>・中学校評議員代表者1名</li> <li>・学校支援センター代表者1名</li> <li>・各行政区代表者1名</li> <li>・小学校(校長、教頭、キャリア教育主任、研修主任)</li> <li>・中学校(校長、教頭、キャリア教育主任、研修主任)</li> <li>・市町村教育委員会事務局2名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育について、児童生徒の実態および推進地域の課題把握、共通理解</li> <li>○キャリア教育の理解のための講演会の実施</li> <li>○小・中の連続性や一貫性を考慮したキャリア教育全体計画の作成・見直し・改善</li> <li>○教育活動全体を通じたキャリア教育推進のための教育課程の編成・見直し・改善</li> <li>○職業に関する体験活動の依頼・協力</li> <li>○キャリア教育の視点を取り入れた体験活動の事前・事後指導の充実</li> <li>○授業研究会の参加</li> <li>○学校と地域の連携によるキャリア教育推進のためのシステムづくり</li> <li>○学校支援センターを活用した体験活動の充実</li> </ul>

○地域を活用した学び

【小学校6年学校行事「三国山遠足」】

(講師：赤谷森林ふれあい推進センター、赤谷プロジェクト地域協議会から各2名)

三国山を散策しながら、自然観察や三国街道の歴史についての説明を聞くことで、地域のことを深く理解し、郷土愛が育まれました。



【赤谷の森の説明】



【事後学習の様子】

★事後学習

・写真を使っでの振り返りを行った。また赤谷森林ふれあい推進センター所長より私たちと森のつながり、いのちのつながりを感じる「ほくたち、わたしたちのこと」の紙芝居を見た。

★児童の感想

・赤谷の森には、3人で手を回しても届かない大きな木があった。ほくたちもこの森を大切にしていきたい。  
 ・「赤谷プロジェクト」のメンバーの方々から動植物のことや歴史について、たくさんのことを教えてもらった。後日散策時に仕掛けた「センサーカメラ」に写った動物を見せてもらい、本当にいることが分かった。

【中学校2年総合的な学習の時間「チャレンジウィーク」】

学習過程	主な学習内容
事前学習	○地域人材による学習 ・地域のよさについての講演会
体験学習	○地域の協力によるチャレンジウィーク(1週間) ・地域の事業所での職場体験学習
事後学習	○チャレンジウィークのまとめの実施 (前半)・小学校6年生、中学校1年生を対象にした発表会 (後半)・中学2年生、保護者、事業所の方、地域の方をパネラーにしたパネルディスカッションを実施する。働くことについて意見交換をする。 ・パネルディスカッションを踏まえて、ワークショップを実施する。小学校6年生、中学校1年生、事業者、地域の方も交えて意見交換をする。

中学生が、地域の事業所で長期間体験することで、地域の産業の素晴らしさを発見したり、そこで働く人々の喜びに気付いたりすることを通して、地域への愛着や誇りを感じることができるといった貴重な機会となった。

異なる立場の方や異学年との交流をすることで、リーダーシップや、他人の考えや気持ちを受け止めたり、工夫しながら自分の考えや気持ちを伝えたり、周囲と力を合わせて活動したりしようとする能力を育てることができた。

#### (4) 重点化により能力・態度の着実な育成を図った取組

##### 【実践の概要：明和町立明和中学校区（明和東小・明和西小・明和中）】

児童生徒のキャリア発達がどの程度促されたかを見取るために、児童生徒の意識調査を基に、地域で特に重点的に育成したい基礎的・汎用的能力を洗い出した。そして、基礎的・汎用的能力の中から「課題対応能力」を地域として育成したい能力・態度として重点化し、各教科・領域の指導の中で「課題対応能力」の育成を視点にした授業実践を行った。

##### 【目指す児童生徒】

- 自ら課題をもち、資料を活用して解決していこうとする。
- 課題に対しての見通す力や将来を見通して行動しようとする。
- 学習内容が自分の将来の夢の実現にどのようにつながるのか、理解する。

##### 【地域の願い】

- 自らの課題に向かって主体的に取り組んでほしい。
- 情報を収集し、分析し、計画を立てたり、見直したり、改善したりできる子供に育ててほしい。

##### 【変容】 子供が変わる！

- 子供たちの学習意欲が向上し、「今の学習が自分の将来につながっていく」という意識が向上し、主体的に行動する姿が多く見られるようになる。
- 学習記録シート（例：夢へのあしあとシート）等により、子供たちは学習課題に対して見通しをもって計画的に進めることができ、学習内容が自分の将来につながることを意識できるようになる。
- キャリアの視点に基づいた掲示物を設置することで、子供たちが今と将来を結び付け、自分の将来について考える意識が高まる。
- 活動や行事に取り組む際、目標をもって取り組むようになったことに加え、自己の振り返りや次への目標につなげる意識が身に付くようになる。

#### 実践するときのPOINT

- 実態調査等を基に、地域や学校で最も課題となる能力を中心に全体計画や年間指導計画を系統的に整理・改善する。



〈具体的な取組〉

○全体計画の見直し

以下のポイントで、全体計画を各学校で見直しました。

- ①把握した課題から目指す児童生徒像（目標）を設定
- ②目指す児童生徒像（目標）を受けて、4つの基礎的・汎用的能力別に目標を具体的に設定（特に課題対応能力に重点）
- ③各教科等や行事等の関係の整理

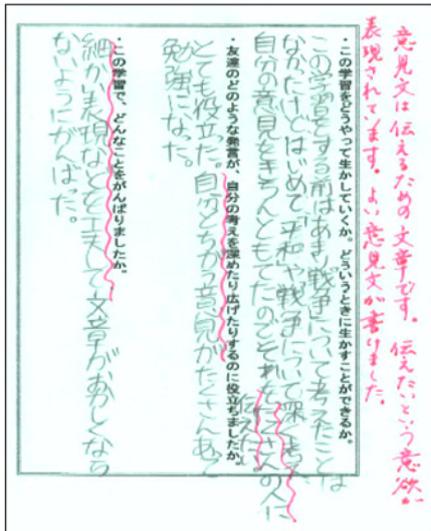
○年間指導計画の改善

以下のポイントで、年間指導計画を各学校で見直しました。

- ①学年ごとに、他教科とのつながりが見えるようにする。
- ②課題対応能力に関わりの強い単元・題材を表記する
- ③実施時期が把握できるようにする。

○夢へのあしあとシート

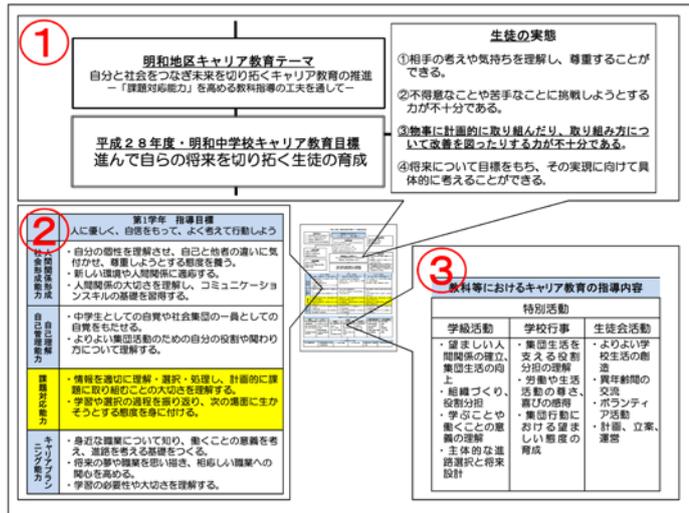
発達段階と学年の実態を考慮し、キャリア教育の視点での振り返りをするためのワークシートを作成しました。



【夢へのあしあとシート（明和東小学校）】

○各教科で課題解決型の授業実践

各教科における課題対応能力を具現化し、キャリア教育の視点に立った課題解決型の授業を各学校で実践しました。



【全体計画（明和中学校）】

キャリア教育年間指導計画（第4学年）

- 目標のよさを生かしてよりよい人間関係を築き、夢や希望を実現しよう
- 中学年の目標
- 自分の持ち味や友達とのよさをみとめ、協力して活動しよう
- キャリア発達に関わる基礎的・汎用的能力
  - ①人間関係形成・社会形成能力
  - ②自己理解・自己管理能力
  - ③課題対応能力
  - ④キャリアプランニング能力

※ 太字は課題対応能力に特に関わる単元

月	4	5	6	7
行事	① 1年生を迎える会	修学旅行①②		
学級活動	◇4年生になって③4年生の自覚をたかめるようにする。 ◇関係を決めるようにする。 ①学級生活を楽しく決めるようにする。	◇楽しい修学旅行③年①日①生を楽しくする。	◇清潔で楽しい給食④すみやかに準備ができるようにする。	◇夏休みの計画を立てよう③安全な夏休みにする。
道徳	エジソンとえいじ（基本的な生活習慣） ②よく考えて行動しようとする。	えがおであいさつ（礼儀） ①礼儀の大切さを知り、真摯な態度を養う。	あこがれのアナウンサー（個性伸長） ④自分の特徴に誇りをもち、自信を育てる。	おばあさんのおむすび合を心 かえ（家族愛） ①敬愛し、協力し合う心 を育てる。
教科	英語 英語であいさつや友達の名前を言い合おう。 ①持分りしな話をしよう。	国語 話し合いの役割をわかって、共通の話題を話そう。 社会 住みよいくらしをつくる（ごみ） ③ごみの始末のしかたを理解する。	体育 キャッチボール①②ルールを守り、ボールを投げよう。 社会 住みよいくらしをつくる（水） ③④町の浄水場の仕事を働く人を知る。	国語 新聞作り③④新聞の作りかたを学ぶ。 うろう作事 くを特り、記した文章を くを特り、記した文章を くを特り、記した文章を

【年間指導計画（明和東小学校）】



【授業の様子（明和西小学校）】

## 2 各教科等における授業実践例

### (1)人間関係形成・社会形成能力

#### 授業実践

#### 小学校6年 学級活動

1

#### 「よりよい学校にするために6年生としてできること」

##### 〈単元のねらい〉

よりよい学校にするために6年生としてできることを考え実践することを通して、学校のリーダーとしての役割と責任について理解し、主体的に役割を果たそうとすることができる。

時間	主な学習活動
事前	・学校の問題点を見つけ、話し合いシートに記入する。
1	・よりよい学校にするための方法について話し合いをする。(本時)
事後	・計画委員が決定事項を背面の壁に掲示する。 ・係ごとに役割を分担し、実践する。 ・実践について、振り返る。

##### キャリア教育とのかかわり

学校の課題を解決するために、最高学年である6年生として自分達にできることを話し合うことは、集団における役割と責任を果たす力の育成につながる。

本時のねらい	学校の課題を解決し、よりよい学校にするために、どんなことに取り組むかを決める。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 計画委員を中心に話し合いの流れについて確認する。	○議題について話し合い、決定事項を実行すると自分たちがどのような姿になるのか確認することで、必要感をもって話し合いができるようにする。	
2 話し合い① ○学校にどんな問題があるか、個人の考えとその理由について、話し合いシートに記入したことを発表する。 ○友達の考えを比べ、解決すべき課題を決定し、話し合いの見通しをもつ。	○自分の意見に固執する児童には、提案者の思いをもう一度確認させ、自分と異なる意見も認められるようにする。  【めあて】 集会が始まるまで、全校が静かに待てるようにするために、自分たちでできることを考えよう。	
3 話し合い② ○課題の解決策とその理由について意見を出し合う。 ○自分と友達の意見を比べ、折り合いをつけながら解決策について話し合う。 ○全体で解決策を決定する。	○大切さや実行のしやすさの観点で解決策を考えさせるようにする。  (児童が考えた解決策) ・うるさくならないクイズをする。 ・低学年にも分かる劇をする。 など  【教科等の評価】 自他の意見の共通点や相違点を見つけ、折り合いをつけて、よりよい解決策を発表している。(思考・判断・実践)	★下級生の様子を考えながら、最高学年として責任をもって役割を果たすことができる取組を考させるようにする。
4 話し合い③ ○考えた解決策をどの係が担当するのか決定する。	○解決策と係の仕事内容との関連を考えて、担当する解決策を決めさせるようにする。	
5 本時の話し合いについて振り返る。	○話し合いの場面では、より根拠をもって意見を述べたり、折り合いをつけたりしていたことについて賞賛する。	

### 子供たちが変わる!

6年生としての自覚をもち、他学年のことを考えて、主体的に行動できるようになる。

### ここがポイント

話し合いを活発にするためには、児童生徒が自分のこととして感じている必要感のある課題で話し合うことが大切である。

## (1)人間関係形成・社会形成能力

授業実践  
2

中学校1年 国語

### 「論理で迫るか、感情に訴えるか 討論ゲーム」

#### 〈単元のねらい〉

立場や目的に沿って効果的に話したり、発言の特徴に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができる。

時間	主な学習活動（本時は4/4）
1	・討論ゲームの概要をつかみ、テーマを決めてチーム編成を行う。
1	・討論ゲームの準備をし、トライアルを行う。
1	・討論ゲームを行う。
1	・討論ゲームを行う。

#### キャリア教育とのかかわり

「論理で迫る」主張の方法と「感情に訴える」主張の方法との異なるスタイルで討論する活動は、場の状況、相手の様子や反応に応じて適切に話すことができることにつながる。

本時のねらい	様々な立場で話し合いに参加する討論ゲームをすることによって、効果的な話し方や聞き方について自分の考えをまとめることができる。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 本時の学習内容を確認し、見直しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の振り返りの項目をめあてと合わせて示しておく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【めあて】</b> 討論ゲームを通して、効果的な話し方や聞き方について考えよう。         </div>	
2 討論ゲームをする。 ①オープニング  ②第1ラウンド ③第2ラウンド  ④エンディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の振り返りの項目をめあてと合わせて示しておく。</li> <li>○司会のスムーズな進行のために進行用ワークシートを準備する。</li> <li>○審判に対して評価の観点をスコアシートに示し、感想の視点を明らかにする。</li> <li>○活動の合間で学習のポイントを指摘したり、自分たちの表現行為を振り返って考えさせたりする。</li> <li>○審判団のスコアシートには、コメント欄を設けコメントタイムに備える。</li> <li>○フロア（聴衆）の人にも「よかった点」「難しかった点」「気付いた点」などをメモができるようなワークシートを用意しておく。</li> <li>○テンプレートをを使って形式を体験させる。</li> </ul>	
3 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「論理で迫る」か「感情に訴える」それぞれの話し方のよさ、適している場面を考えさせることで、それぞれの特性について理解を深めさせる。</li> <li>○自分の考えをワークシートにまとめる。</li> <li>○個別→隣同士→全体で、考えを交流させる。</li> <li>○振り返りシートで自己評価をさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【教科等の評価】</b>            立場や目的に沿って効果的に話したり、発言の特徴に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。（話すこと・聞くこと）         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0ffe0;"> <b>★授業を振り返り、説得力のある話し方について考えさせ、全体で交流する。</b> </div>

#### 子供たちが変わる!

立場や目的に沿って効果的に話すことができるようになる。

#### ここがポイント

討論をゲーム形式で取り入れることで、楽しみながら実践的なコミュニケーション力である「伝える力」「説得する力」を養える。

## (1)人間関係形成・社会形成能力

授業実践  
3

### 中学校1年 英語 「友達にインタビューしよう」

#### 〈単元のねらい〉

インタビューをもとに三単現の表現を用いて、第三者について簡単な紹介文を書くことができるようにする。

時間	主な学習活動（本時は2/3）
1	・三単現の表現とインタビューで使える質問やつなぎ言葉等を知る。
1	・仲間に、好きな人物についてのインタビュー活動を行う。
1	・インタビューで得た情報を基に、仲間の好きな人物について、三単現の表現を用いて紹介文を書く。

#### キャリア教育とのかかわり

インタビューする内容を「仲間の好きな人物」と設定することで、「知りたい」「教えたい」という意欲を引き出すことは、「生徒が進んで人とのかかわりをもつ」能力を高めることにつながる。

本時のねらい	好きな人物についてのインタビュー活動を通して、三単現の表現を積極的に用いようとすることができる。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
○Greeting ○ALT time 1 対話を通して、本時の課題をつかむ。	○本時の課題をつかめるように、三単現の表現とインタビューで使える質問やつなぎ言葉等について、ALTとのやりとりを通して取り上げる。  【めあて】三単現の文を用いて、仲間の好きな人物について質問したり答えたりすることができるようになる。	★インタビューで積極的に相手に関われるように、「好きな人物を当てる」というテーマを用意する。
2 JTEとALTによるモデル活動聞き、インタビューの仕方と答え方を確認する。	○生徒が具体的に活動の流れをイメージできるように、JTEとALTでよい例とよくない例を示しながらのモデル対話を行う。 ○互いにインタビューを繰り返していけるように、つなぎ言葉を掲示しておく。	
3 全体やペアで、活動の形態を変えながらインタビューを行う。	○好きな人物が絞れず、聞き手が質問に困っている場合には、答える側が人物のヒントを与えるように伝える。  【教科等の評価】 好きな人物のインタビュー活動で、三単現の表現を積極的に用いようとしている。 (関心・意欲・態度)	★「つなぎ言葉や相づちがあると、相手との会話が継続していく」という視点を、意図的に取り上げる。
4 インタビューで得た情報の1つを、三単現を用いてワークシートに書く。	○次時の紹介文を書く活動につながるように、インタビューのやりとりの中から三単現を用いた文を1文書かせる。	
5 本時の学習を振り返る。	○三単現の表現について触れている生徒の振り返りを紹介する。	

#### 子供たちが変わる!

自分から他者に働きかけながら、協力して行動できるようになる。

#### ここがポイント

生徒が「聞きたい」「知りたい」と思えるテーマを用意するとともに、相手へのよい働きかけにより会話が長くポイントを共有する場を設ける。

## (2)自己理解・自己管理能力

授業実践  
4

小学校4年 国語

### 「説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう」

#### 〈単元のねらい〉

書こうとすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。

時間	主な学習活動 (本時は7/9)
1	・3年生に係活動について伝えることを確認し内容を決める。
2	・書く内容を考え、それに合わせた写真を準備する。
3	・文章の組立てを考え、下書きをする。
課外	・5、6年生に読んでもらいアドバイスをもらう。
1	・5、6年生のアドバイスを基に推敲する。
2	・清書をする。

#### キャリア教育とのかわり

5、6年生のアドバイスを基に、自分の課題を解決できるような文章を書き直す活動は、難しいことでも自分らしく挑戦する力を育成することにつながる。

本時のねらい	係活動について伝えるため、自分のリーフレットの文章を見直し、より分かりやすい文章に書き直す。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。	○5、6年生からもらったアドバイスをもとに、話し合いながらよりよい文章にしていく手順を確認する。	★自分の課題を振り返ることで、本時の学習に対する必要感をもって、課題解決に向けて挑戦しようとする意欲をもてるようにする。
【めあて】リーフレットをより分かりやすい文章に直そう。		
2 5、6年生のアドバイスをしながら、修正点についてグループごとに話し合う。	○5、6年生には、4年生が自分の課題だと考えているところを伝え、その点について具体的なアドバイスをカードに書いてもらっておく。 ○グループで5、6年生のアドバイスと作文チェックリストと照らし合わせ、自分の課題をどう直したらよいか気付けるようにする。 ○同じグループ内のアドバイスを一緒に確認することで、友達のよい表現に気付かせ、自分の文章を直すときの参考にできるようにする。	★3年生に伝えるという目的を確認させることで、自分の課題を解決できるように文章を直すことができるようにする。
3 話し合いを振り返り、自分の文章を分かりやすく書き直す。	○自分の課題を再確認し、課題を解決できるように文章を書き直させるようにする。	
	【教科等の評価】 自分の文章を見直し、より分かりやすい文章に直している。(書くこと)	
4 本時の学習を振り返る。	○自分なりに課題に向かって挑戦できたか振り返らせるようにする。	

#### 子供たちが変わる!

5、6年生のアドバイスがあるため、難しい課題に対しても解決しようと挑戦することができるようになる。

#### ここがポイント

自分の課題に挑戦できるようにするために、5、6年生の係活動を手本に自分たちが実践したことを3年生に分かりやすく伝えるという必要感をもたせる。

## (2)自己理解・自己管理能力

授業実践  
5

小学校6年 総合的な学習の時間

「思い描こう！将来の自分 見つめよう！今の自分」

〈単元のねらい〉

働くことや職業について関心をもち、調べたりまとめたりすることを通して、自分のよさや可能性に気づき、自分の人生や将来、今の自分についての考えを広げる。

時間	主な学習活動（本時は11/35）
12	・人間関係形成の講演を聞く。
	・キッズニアで職業体験をする。
	・自分のよさを自己PR文に書き、グループで交流する。
	・これまでの学習を生かし、自分の課題を決める。
16	・職業調べをする。
	・ゲストティーチャーから職業の話聞く。
	・身近な人にインタビューする。
	・職業調べの発表会を行う。
7	・自分の思い描く将来についてまとめ、発表し合う。
	・これまでの学習と思い描いた将来の自分を振り返り、今の自分を見つめる。

### キャリア教育とのかかわり

自分自身から見た自分のよさ、友人や家族の視点から見た自分のよさに触れ、自己PR文を作成する活動は、自己理解を深め前向きに考えたり主体的な行動を取ったりするなどの自己管理能力の向上につながる。

本時の  
ねらい

「自分の内面のよさ」を整理した自己PR文を交流することで、自分自身のよさに対する見方を広げ、伸ばしたい自分のよさを見付けることができる。

主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 自分の内面を見つめ直し、自分のよさを知りたいという思いをもつ。	○自分から見た自分の内面のよさを把握させるために付箋紙と「自分を知るシート」を活用し、好みや性格を整理させる。	★子供が自己理解を深め、伸ばしたい自分のよさに気付けるように、教師の言葉がけ(前向き、共感的)を工夫する。
2 本時の学習の見通しをもつ。	○整理したことを振り返らせることで、学習の見通しをもてるようにする。 <b>【めあて】</b> 自分のよさをもっと知ろう。	
3 周りからみた自分のよさを知る。 友達・家族からみた自分のよさを「下書きシート」に貼る。	○「よいところ探しシート」で友達が○をつけた根拠を知りたいときは、当人に聞きに行かせる。 ○自分の内面のよさへの見方をさらに広げるために、家族に付箋紙に書いてもらっておいた「家族からみた自分の内面のよさ」を配布する。	★自己PR文の交流を共感的な雰囲気の中で行うことで、自分のよさをさらに伸ばしていこうとする意欲をもたせる。
4 「自己PR文」を作成し、グループで交流する。	○自分の内面のよさに対する見方を広げられるように、伸ばしたい自分のよさに着目した「自己PR文」を作成し、グループで交流する。	
5 本時の学習を振り返る。	○新たに見つけた自分の内面のよさについて振り返ることで、自分に対する自信をもてるようにする。 <b>【教科等の評価】</b> 自分自身のよさに対する見方を広げ、自分のよさを伸ばしていこうとしている。 (ワークシート・発言・観察)	

### 子供たちが変わる!

自分のよさに対する見方が広がり、伸ばしたい自分のよさが見つかることで、生活や学習の中で、自分のよさを生かしていこうとする。

### ここがポイント

「先生も〇〇さんのそういう点が素晴らしいと思う!」「今まで気付かなかった自分のよさを見付けられてラッキーだね!」等、自分のよさに目を向けさせ、伸ばしていこうとする意欲をもたせるための教師の言葉がけを行う。

### (3) 課題対応能力

授業実践  
6

小学校4年 国語

「スポーツリーフレット」を作ろう

#### 〈単元のねらい〉

段落相互の関係に注意し、理由や事例を挙げながら、書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができる。

時間	主な学習活動 (本時は6/8)
1	・教材文を読み、リーフレットを作る見通しをもつ。
1	・選んだスポーツの面白さや理由について、構成メモを作る。
1	・メモをもとに下書きをし、貼る写真を選ぶ。
1	・グループで読み合い、付箋紙にアドバイスを書き入れながら、修正点を話し合う。
1	・選手のよさを伝える文章を考えて下書きをする。
1	・グループで読み合い、付箋紙にアドバイスを書き入れながら、修正点を話し合う。
1	・下書きを修正し、リーフレットを仕上げる。
1	・3年生にリーフレットを紹介する。 ・単元全体を振り返り「夢のあしあと」に記入する。

#### キャリア教育とのかかわり

本單元では、自分の選んだスポーツの面白さや選手のよさを、リーフレットにして3年生に紹介する活動を行う。(異学年交流)  
リーフレットの文章を見直す場面でグループの友だちと文章を読み合い、よい点や改善点を話し合うことは、より分かりやすい紹介文を書こうと主体的に取り組む「課題対応能力」の育成につながる。

本時のねらい	友だちとスポーツ選手の紹介文を読んで話し合い、書こうとすることの中心を明確にして紹介文を書くことができる。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 前時の下書文を読み、本時の課題をつかむ。	○分かりやすい文にするための視点を確認する。  【めあて】 友達の考えを取り入れて、選手のよさがよりよく伝わるしょうかい文を書こう。	
2 選手紹介文を交換して読み、付箋紙に助言を書く。	○よい点、疑問点、修正点を3色の付箋紙に書く。 ○「初め、中、終わり」の段落構成の他に、内容に踏み込んだアドバイスができるようにする。	★3年生に伝えるという相手を意識した文章になるように助言し合う。
3 付箋紙に書いたことをもとに、修正点を話し合う。	○どのように直したらよいかを相談させ、個々の修正点に対する見通しをもたせることで、具体的な文章表現ができるようにさせる。	
4 話し合いを基に文章を修正し、発表する。	○修正後の児童の文章を実物投影機で提示する。  【教科等の評価】 文章の構成を理解して、書くことの中心を明確にして書いている。(書くこと)	★助言でどのように改善したかを紹介させ、今後の学習に生かせるようにする。
5 本時の学習を振り返る。	○「夢へのあしあと」に前時の学習からのつながりを意識した振り返りを書かせることで、自己の変容について気付かせていく。	※「夢へのあしあと」シートについてはP14参照。

#### 子供たちが変わる!

付箋を活用して自分の考えを相手に伝えたり、友だちの考えを取り入れたりすることで、分かりやすい文を書こうと主体的に取り組む「課題対応能力」を育成することができるようになる。

#### ここがポイント

「夢へのあしあと」シートを作成し、毎時間後、記入したことは、児童が単元全体の見通しをもつことや目標を振り返ることにつながり、自己理解を深め、自分の将来の姿や夢への意欲を高める。

### (3) 課題対応能力

授業実践  
7

小学校4年 社会

「伝統を受けつぐ『高崎市のだるまづくり』」

#### 〈単元のねらい〉

高崎だるまを事例に、だるまは地形や気候を生かしてつくられ、職人の優れた技術を大切に受け継いでいることを捉えることができる。

時間	主な学習活動 (本時は2/8)
1	・本単元の学習課題を把握する。
1	・学習課題に対する学習計画や調べる手立てを考える。
1	・だるまづくりの工程を調べる。
2	・だるまづくりの歴史を調べる。
1	・今後のだるまづくりについて調べる。
1	・高崎だるまのひみつをリーフレットにまとめる。
1	・リーフレットを見せ合って学びを深め合い、県内の伝統工芸品に指定された優れた伝統工業があることを知る。

#### キャリア教育とのかかわり

単元全体の学習課題に対して、個人からグループ、全体へと互いの考えを交流し合いながら自分と異なる考え方や視点があることに気づき、そこから必要な情報を主体的に選択し、調べる手立てを考える活動は、課題に対して自ら取り組む児童の育成につながる。

本時のねらい	単元の学習課題「高崎だるまづくりのひみつをさぐりにいこう」に対する学習計画を立て、調べる手立てを考えることができる。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 前時の学習内容を振り返り、単元の学習課題を確認し、本時の学習の見直しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○だるま市の写真を掲示して気付くことを自由に出させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【めあて】</b> 高崎だるまづくりのひみつをさぐる方法を考えよう。</p> </div>	
2 学習課題について調べたいことを考える。  ○書き出されたことをグループで内容ごとに分類する。  ○グループごとに分類された内容を全体に情報交換し合う。  ○分類ごとに調べる手立てを考える。  ○学習課題に対する学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べてみたいことを思いつきやすくするために、実物のだるまに触れさせる。</li> <li>○調べたいことを各自付箋に書き出した後、書き出したことをグループで交流させ、さらに、分類された内容ごとに調べる手立てを考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【教科等の評価】</b> 単元の学習課題「高崎だるまづくりのひみつをさぐりにいこう」に対する学習計画を立て、調べる手立てを考えることができる。 (思考・判断・表現)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★課題を解決するために適した手立てを複数の中から考えさせ、必要な情報を集めさせる見直しをもたせる活動を通して「しらべる力」を伸張させる。</p> </div>
3 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習記録カード」の本時の欄に学習記録を記入させ、次時の学習意欲を高められるようにする。</li> </ul>	

#### 子供たちが変わる!

学習計画を基に見直しをもって学習し、課題解決に向けた手段を知り情報収集を行い友達と交流することで、友達の考えのよさや自分の考えとの違いに気づき、考えを深めることができるようになる。

#### ここがポイント

友達の考えのよさや自分の考えとの違いに気付かせ、自分の考えを深めるようにするために、調べて分かったことを発表したり発表を聞いたりする場を設定する。

### (3) 課題対応能力

授業実践  
8

## 中学校1年 美術 「生活を彩る文様」

### 〈題材のねらい〉

文様の魅力や役割に関心を持ち、誰が、どのように使うかなどの目的や条件からオリジナルの文様や装飾を発想し、印の押し方を工夫して文様を美しく構成した手ぬぐいを制作する。

時間	主な学習活動（本時は4／6）
1	・江戸文様とアイヌ文様の鑑賞を通して、美術と生活の関わりに関心をもつ。
1	・制作課題を設定し、作品の構想を練る。
1	・彫刻刀の特性などを確認して制作する。
1	・ <b>試しの活動を行う。</b>
1	・印の押し方を工夫し、表したいイメージに合う手ぬぐいを制作する。
1	・作品を鑑賞する。

### キャリア教育とのかかわり

課題を解決する手立てとして、手立てを複数検討することや、手立てを組み合わせたり改善したりして自分なりに工夫する活動は、課題に応じて解決方法を追究していく力の育成につながる。

本時のねらい	試しの活動を通して文様の配置や組み合わせをつくりながら構想していくことで、表現を工夫する力や、構想を練り上げる力を高める。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 本時の活動を確認し、アイデアを構想する手立てに対する見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アイデアを構想する手立てとして、描いて構想する方法とつくりながら構想する方法があることやそれぞれの特徴を理解させ、活動の意図や方法を理解し、表現を追求することができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【めあて】</b> よりよいデザインとなるように、試しの活動を通して文様の配置や組み合わせを追求しよう。</p> </div>	<p>★アイデアを構想する手立てとして、描いて構想する方法とつくりながら構想する方法があることやそれぞれの特徴を理解させることで、本時の活動の意図や方法を理解し、表現を追求することができるようにする。</p>
2 試しながらアイデアスケッチのデザインを試作したり試作中に生まれた新たな発想を試したりしてよりよい表現を追求する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手ぬぐい大の紙を用いた試しの活動を通して、アイデアスケッチのデザインを試作したり、試作する中で生まれた新たな発想を試したりしながら試行錯誤することで、表現を追求できるようにする。</li> </ul>	
3 試しの活動を通して生まれたよさや工夫の仕方について、言葉で整理して共有し、構想を練り上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○試作品の中に生かしたい表現がある場合には、付箋に生まれたよさや工夫を貼らせる。</li> <li>○言葉でまとめさせることで表現のよさを明確にしたり、構想を整理してまとめ上げたりすることができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【教科等の評価】</b> 試しの活動を通して、表現を工夫し、構想を練り上げている。 (発想や構想の能力)</p> </div>	
4 学習の成果を振り返り、次時に対する見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに本時の学習のまとめ、記入した内容を語らせることで、学習の成果を実感したり、共有したりできるようにする。</li> </ul>	

### 🔍 子供たちが変わる!

課題解決の手立てを組み合わせたり、改善したりして自分なりに工夫することができるようになる。

### 👉 ここがポイント

試行錯誤できる課題や場を設定して、自己決定を繰り返しながら、自分なりの答えを生み出させる。

## (4) キャリアプランニング能力

授業実践  
9

小学校3年 社会  
「店ではたらく人」

### 〈単元のねらい〉

地域の販売に従事する人々の仕事の様子を調べ、販売の仕事に従事する人々の工夫や他地域との関わりを考えることを通して、販売の仕事の特色やそれらの仕事が自分たちの生活を支えていることを理解する。

時間	主な学習活動（本時は9 / 13）
3	・販売に携わる仕事について、学習課題と調査計画をつくる。
5	・スーパーマーケットの見学・調査する。
3	・調査内容をまとめと発表をする。
2	・販売に携わる仕事について考え、自分の生活を見直す。

### キャリア教育とのかかわり

職場見学・インタビューや働く人たちの工夫点を考える活動が、働くことの意義や職業観についての理解につながる。

本時のねらい	見学で発見したひみつを分類することにより、店で働く人は、買い物客のために様々な工夫や努力をしていることに気付く。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 本時の学習の見直しをもつ。	○前時のスーパーマーケットの見学・調査を想起させる。  【めあて】 スーパーマーケットにたくさんのお客さんが来る理由を見つけよう。	
2 発見したひみつを付箋に書き、事前に予想した項目に合わせて整理する。	○店で働く人たちの工夫や努力に気付けるよう、お店の人の立場で考え、整理させる。 ○自分の考えを説明しながら、付箋を貼らせる。	★販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気付かせ、職業体験等で学習する働くことの意義への理解につなげる。 ★付箋に自分の意見を簡潔に書かせることで、わかりやすく伝える力を育成する。
3 気付いたことを発表し、学級全体で共有する。	○全員が発表できるよう、項目毎に分担を決め、発表させる。 ○新たな気付きや思ったことをワークシートにメモするよう指示をする。	
4 消費者の願いと店で働く人の工夫との関連について考える。	○単元のはじめに考えた予想と比較しながら、考えをまとめさせる。  【教科等の評価】 買い物客の願いに応えるための、店で働く人たちの工夫や努力に気付いている。 (思考・判断・表現)	★消費者の願いと、店の人の工夫を比較し、働く人たちの思い、職業観に迫らせる。
5 本時の学習を振り返る。	○次時の「新たな疑問、課題を見いだす」活動につなげる。	

### 子供たちが変わる!

普段は客の立場である子供たちに、お店の人の立場で考えさせることで、働く人たちの思いや働くことの意義に気付くことができるようになる。

### ここがポイント

お店の人たちの工夫が地域の人々の生活を豊かにしていることへの気付きを、拾い上げ共有させる教師の言葉がけが大切です。

(4) キャリアプランニング能力

**授業実践 10** 中学校2年 総合的な学習の時間  
「自分の将来設計をしよう」

〈単元のねらい〉

これまでの学習をもとに自分の将来像について考え、これからの将来設計を行うことができる。  
高等学校をはじめとする上級学級について本やインターネットなどを用いて調べ、必要な情報を分かりやすくレポートにまとめることができる。

時間	主な学習活動（本時は1/15）
1	・自分の将来像について考えを深める。
1	・上級学校の種類や試験制度などを理解する。
1	・自己課題を設定する。
4	・課題の解決に向けて、高等学校について調べる。
6	・調べたことを整理し、まとめ、発表する。
2	・将来を見据えた進路計画を立てる。

**キャリア教育とのかかわり**  
将来就きたい職業に就くためにはどんな能力が必要か考える活動は、自分の将来を意識して生活できるようにすることにつながる。

本時のねらい	自分の夢や目標の実現に向けて見通しをもち、今できることについて考えることができる。	
主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	キャリア教育上の支援
1 職場体験活動の事後アンケートから職場体験活動の前後で勤労観・職業観がどのように変化したのか知り、学習の見通しをもつ。	○職場体験活動の前後に、勤労観・職業観に関する調査をし、その結果をグラフに表し、提示する。	★職場体験活動の前後を比較して、働くことに関する意識が変化したことを自覚できるようにする。
<p><b>【めあて】</b> 将来の夢を実現するために、今自分にできることを見つけよう。</p>		
2 将来就きたい職業や大まかな将来の希望を数名の生徒が発表する。	○将来の明確な希望がない生徒には、友達の発表を参考にして再度将来の目標や希望を考えさせるようにする。	★将来の夢や目標の実現に向けて、今できることが何か考えることができるようにする。
<p>○将来就きたい職業 ・教師→大学卒業、教員免許 ・自動車整備士→国家試験合格</p>	<p>○大まかな希望 ・コンピュータ関連→数学、英語を学習 ・生活が安定するような仕事</p>	
3 その職業に就くために、学歴や資格、学校生活で身に付けられることなどを考える。	○職業が決まっていない生徒には、学校生活でできることを考えさせるようにする。	
4 グループ内で発表したり、学級全体で発表したりする。	<p><b>【教科等の評価】</b> 将来の夢や目標の実現に向けて、見通しをもち、今できることについて考えている。 (自分自身に関すること)</p>	
5 本時の学習を振り返る。	○自分の考えた将来像を振り返らせ、直近の進路に着目させ、上級学校への関心を高めるようにする。	

**子供たちが変わる!**

今の学びが将来役に立つことに気付き、見通しをもって学習に臨むことができるようになる。

**ここがポイント**

職場体験活動の振り返りアンケートを活用して、活動の前後で勤労観・職業観の変化について知らせると、将来について意欲的に考えようとする。

1学年「職業調べ」や3学年「30歳の私」とのつながりを意識した指導をする。

## Ⅲ キャリア教育 Q & A

### 指定地域の先生方が答えてくれました！

#### Q 1 キャリア教育を実践することで、どのような効果が期待できますか？

- A**
- 児童生徒は、今の学びと将来とのつながりに気付き、積極的・主体的に学習に取り組むようになり、学習意欲が向上しました。また、自分の思いや考えを、自分の言葉で伝えられるようになりました。さらに、地域とのつながりを大切に、地域の人との交流や体験活動を通して、働くことの意義や苦勞などが分かり、自分の将来について真剣に考えるようになりました。
  - 教師は、授業づくりに対する姿勢、授業中や学校生活の中での児童生徒への言葉がけが見られ、教師の資質が向上しました。また、教科では見取れない児童生徒の成長について職員間で共有することができ、校内だけでなく学校間においても、職員の一体感が生まれました。
  - 家庭にとっては、家族間の共通の話題が増え親子の間での相互理解が一層深まりました。
  - 地域にとっては、子供たち・教職員・学校への関心・理解が深まり、地域の方々同士や事業所相互の交流なども活発となり、地域の活性化につながりました。

#### Q 2 学校でキャリア教育を推進する場合、何から始めたらいいですか？

- A**
- 全職員で、キャリア教育について正しく理解できるようにしました。
    - ・文部科学省や国立教育政策研究所で出版されているキャリア教育に関する冊子等をみんなで読み合いました。
    - ・キャリア教育に関する講演会を実施しました。
  - 組織を見直しました。
    - ・家庭や地域と連携するための組織を見直しました。既存の組織を活用して、学校間連絡会議やキャリア教育地域推進協議会を設置しました。（→詳しくはP 2）
  - 今ある全体計画や年間指導計画を見直しました。
    - ・児童生徒の実態を踏まえて、各学年や各教科等において、どのようにキャリア教育に取り組むのか、職員で話し合いました。（→詳しくはP 3～4）

#### Q 3 学校でキャリア教育を推進する上で、困ったことは何ですか？

- A**
- キャリア教育について教職員で共通理解できなかつたり、キャリア教育の必要性について理解してもらえなかつたりしたことです。これらの課題を解決するために、Q 2でもお伝えしたように、校内研修でキャリア教育について研修したり、話し合ったりしました。

#### Q 4 「キャリア教育の視点」とは、どういう視点ですか？

- A**
- 各教科や行事等について、社会的・職業的自立を念頭に置きながら、子供たちの成長や発達を促進しようとする見方をもつことです。
  - キャリア教育の年間指導計画を作成したり、キャリア教育を意識した授業や行事をする際に、それらの学習を通して、どのような基礎的・汎用的能力を育てることができるか考えました。（→詳しくはP 3～4）

#### Q 5 中学校区内の小学校と中学校が連携するときのポイントは何ですか？

- A**
- 児童生徒の実態について話し合うことです。それぞれの学校の実態から、課題を見つけ、キャリア教育で育成したい能力・態度を設定し共通理解することで、連携を図ってきました。
  - 小中学校の学びをつなぐ意識を全体計画や年間指導計画を作成したことも小中が連携した取組をする上で有効でした。（→詳しくはP 7～8）

## Q 6 実効性の高い年間指導計画にするには、どうすればよいですか。

A ○各教科等の単元をつなぐための年間指導計画を基にしたキャリアシートに、実践したことを記録する欄を設けたことは有効でした。また、次年度の取り組み際の修正ポイントも示せるようにしたこともよかったです。（→詳しくはP 9～10）

## Q 7 体験学習だけでなく、事後学習でも地域の方と連携するには、どうすればいいですか？

A ○お世話になった地域の方を招待して、学習発表会をしたり、意見交流をしたりしました。体験学習を通してどんなことを学べたのか地域の方に知ってもらうことができたので、地域の方々にも継続的な協力につなげることができました。（→詳しくはP 11～12）

## Q 8 重点を置いたキャリア教育の取組のよさは何ですか？

A ○課題が明確であるため、職員の共通理解を図りやすく、同一歩調で取り組むことができました。○重点を置いた能力だけでなく、それ以外の能力・態度も身に付けることができました。（→詳しくはP 13～14）

## Q 9 キャリア教育を意識した教科等の授業をするときのポイントは何ですか？

A ○キャリア教育を意識しすぎてしまい、教科のねらいを達成できないことがありました。授業は教科のねらいを達成できるように学習を考え、その上で、キャリア教育の視点で学習を工夫することが大切です。（→詳しくはP 15～P 24）

## Q 10 キャリア教育について、どのような資料がありますか？

A ○キャリア教育については、文部科学省や国立教育政策研究所から、たくさんの冊子やパンフレットが出版されています。どれも、インターネットからダウンロードできます。

### 〈キャリア教育に関する冊子等〉

- ・「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1293933.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm)
- ・「中学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省）  
[www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1306815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm)
- ・「キャリア教育を創る」（国立教育政策研究所）  
[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/23career\\_shiryoku/all\\_version.pdf](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/23career_shiryoku/all_version.pdf)
- ・『子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」』（国立教育政策研究所）  
[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/pamphlet/pamphlet2\\_all.pdf](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pamphlet/pamphlet2_all.pdf)
- ・『キャリア教育を「デザイン」する』（国立教育政策研究所）  
<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/design-career/design-career.html>
- ・『キャリア教育が促す「学習意欲」』（国立教育政策研究所）  
[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/pamphlet/pamphlet\\_all.pdf](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pamphlet/pamphlet_all.pdf)
- ・「キャリア教育って、結局何なんだ？」（国立教育政策研究所）  
[https://nier.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=336&file\\_id=22&](https://nier.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=336&file_id=22&)
- ・「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」（国立教育政策研究所）  
[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkou\\_panfu.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkou_panfu.htm)
- ・「語る、語らせる、語り合わせるで変える！キャリア教育」（国立教育政策研究所）  
[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/pamphlet/h28/all.pdf](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/pamphlet/h28/all.pdf)

## キャリア教育ガイドブック「ぐんまのキャリア教育」

### 【作成協力校及び教育委員会】

渋川市立渋川南小学校

渋川市立豊秋小学校

渋川市立渋川中学校

渋川市教育委員会

富岡市立小野小学校

富岡市立北中学校

富岡市教育委員会

みなかみ町立新治小学校

みなかみ町立新治中学校

みなかみ町教育委員会

明和町立明和東小学校

明和町立明和西小学校

明和町立明和中学校

明和町教育委員会

編集・発行 群馬県教育委員会義務教育課

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027 (226) 4615

FAX 027 (243) 7759